
令和 7 年度（2025 年度） 事業計画書

札幌市若者支援施設

令和7年度 事業計画書

【若者支援事業課】

<方針>

若者とともに育つYouth+（ユースセンター）

アウトリーチ事業の強化をとおして、この数年にわたり新たな若者の獲得に邁進してきた中で、Youth+（ユースセンター）の認知度が高まり、多くの若者と出会い、支援者とのつながりを持つことができた。令和7年度は、ユースワーカーがスキルアップを図ることで若者の力を引き出し、若者とともに居場所の充実を目指し、ユースワークの価値を高めていく一年とする。

1. 事業戦略に基づく行動計画及び数値計画

戦略①	こども家庭庁が居場所づくりや子育て支援、貧困対策を推進する中で、当課の支援ノウハウを生かした事業の拡大を図る。	
＜行動計画＞		＜数値計画＞
多様な過ごし方を継続的に提案し、その実践をとおして居場所への定着を図る。		居場所利用延べ人数：40,000人／年

戦略②	こども家庭庁の取り組みに乗じて、若者のニーズを引き出し社会に反映する事業を施設内外へ拡大する。	
＜行動計画＞		＜数値計画＞
若者のニーズに沿った事業プログラムを展開する。（札幌）		延べ参加人数：50人／年1回

戦略③	施設の老朽化に伴い閉館のリスクに備え、国の動向を注視し、社会課題を先取りした事業を行うことにより市民の支持を高める。	
＜行動計画＞		＜数値計画＞
運営協議会と協働し、社会課題の解決につながる事業を展開する。		延べ参加人数：50人／年1回

戦略④	安定的に確保している助成金を活用し、企業独自の社会貢献事業に対処する。	
＜行動計画＞		＜数値計画＞
国の施策等に則った事業を他課や他団体と共に事業を展開する。		パターン化／年1件

2. 共通数値目標

①利用者総数

【人】

R5（実績）	R6（目標）	R6（3月末見込）	R7（目標）
247,692	249,000	250,000	257,000
<R7の設定根拠>			
令和6年度利用者見込み総数から約3%増に取り組む。			

②事業プログラム参加者総数

【人】

R5（実績）	R6（目標）	R6（3月末見込）	R7（目標）
45,733	45,300	46,000	47,000
<R7の設定根拠>			
施設への来館にこだわらない事業展開により参加者数の増加を目指す。令和6年度見込み数から約3%増を段階的に取り組む。			

③利用者アンケートによる満足度

【%】

R5（実績）	R6（目標）	R6（3月末見込）	R7（目標）
99.0	99.0	90.2	91.0
<R7の設定根拠>			
令和6年度の評価基準の見直しを図った。その結果を踏まえて、令和7～10年度については令和6年度評価から約1%増を段階的に取り組む。			

3. 事業実施計画書(地域活動等事業)

(1) 若者支援施設

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自主事業 地域若者サポート ステーション事業 常設サテライトの 運営	【目的】石狩(札幌市を除く)・空知管内の道央 地区における就労支援体制の充実を目的として、 職業的自立に向けたキャリアコンサルティングや 就職支援プログラムなどを実施する。(厚生労 働省事業) ※札幌地域若者サポートステーショ ンの常設サテライトとして、仕様書に含まれる。 【内容】 ・地域若者サポートステーション事業の受託・実 施 ・千歳事業所「若者向け相談窓口」との共催事業 【対象】 15歳～39歳までの若者、40代の就職氷河期世代 【人数】 新規登録者数：50名 進路決定者等数：30名	【R6年度実績予測】			
				通年	新規登録者数 36名 進路決定者数 30名	(9,800)	(9,800)
				【R7年度】			
				通年	新規登録者数 50名 進路決定者等数 30名	(9,800)	(9,800)
2	継続	その他事業 白石区複合庁舎 まちづくり イベント広場等 管理運営事業	【目的】市民の地域参加及びまちづくり団体など の活動の拠点として、参加団体の調整及びイベン ト運営の補助を行う。 【内容】白石区複合庁舎まちづくりイベント広場 の運営 【対象】市民 【人数】随時	【R6年度実績予測】			
				通年	350回	(3,436)	(134)
				【R7年度】			
				通年	350回	(3,500)	(134)
3	継続	その他事業 ヤングケアラー 交流サロン	【目的】 家事や家族の介護を担う18歳以下のヤングケア ラー当事者への支援として、居場所提供のみなら ず、相互に悩みや自身の置かれた環境について意 見交流・情報交換を行い精神的な安心感を得る機 会を提供する。 【内容】気軽に過ごせる居場所の提供を継続的に 行う。こども事業課と連携し部門内でのケース共 有や相談体制の強化を図る。 【対象】家事や介護を担う18歳以下の子ども若 者 【人数】新規相談件数20件 ※こども事業課連携事業	【R6年度実績予測】			
				通年	6回		(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
4	レベル アップ	その他事業 若者の住居支援 事業 「いとこんち」	【目的】 家庭からの自立を必要とする若者や児童養護施設 等を退所した若者への自立支援を目的とし、生活 活動機会及び自立に向けたサポートを行う。 【内容】 ・拠点型住居支援事業「いとこんち」の運営。 ・外部団体・個人との協力・連携体制の構築。 【対象】 おおむね13歳～19歳までの子ども・若者、児童 養護施設等の出身者は24歳まで、子育て中のひ とり親は29歳まで 【人数】 ※こども事業課連携事業	【R6年度実績予測】			
				通年	110回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
5	継続	その他事業 若者支援関連事業 の受託	【目的】若者支援事業の拡充を目指し、新規関連 事業を積極的に受託する。なお、受託にあたって は、その都度、仕様書に基づき、若者支援施設の 可能性を広げるための手段としての妥当性を協議 する。 【内容】若者に向けてより効果的な取組みにつな がる事業の受託。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】未定	【R6年度実績予測】			
				通年	1回	(3,988)	(1,957)
				【R7年度】			
				時期未定	時期未定	(3,988)	(1,957)

4. 事業実施計画書(施設運営等事業)

(1) 若者支援施設全施設共通 プロジェクト事業

(単位): 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	交流促進事業 アウトリーチ 促進事業	【目的】 Youth+施設外における居場所を提供する。若者一人ひとりの状況に応じて、早期に必要な支援等に介入することが可能となる関係性を構築する。 【内容】 ①出張コース・ワーク (学校内居場所・定期訪問型・随時訪問型) ②Youth+みんなのカフェ部 (拠点型・巡回型・訪問型) 【対象】 主に15歳～34歳までの若者 【人数】 ①各回により設定 ②各回10人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	①110回 ②120回	(0)	(1,217)
				【R7年度】			
				通年	①100回 ②120回	(0)	(1,462)
2	継続	社会参加促進事業 アドボカシー推進 事業	【目的】 若者が直面する様々な課題や関心ごとに焦点を当て、若者の声を社会に発信する機会を創出する。 【内容】 若者とのユースワークストーリーの蓄積とその取り組みの発信、他都市若者支援団体との実践交流 【対象】 主に15～34歳の若者、一般市民、 他都市若者支援団体 【人数】 事業による	【R6年度実績予測】			
				通年	34回	(0)	(10)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(50)

(2) 若者支援施設全施設共通 自立支援事業/交流促進事業/社会参加促進事業(共通)

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 交流促進事業 社会参加促進事業 共通 情報コーナーの 設置	【目的】 若者団体及び社会参加に関する有効な情報を提供する。 【内容】 自由に閲覧ができるコーナーをロビーに設置し、資料等を配架する。 【対象】 主に15～34歳の若者 【人数】 定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
2	レベル アップ	自立支援事業 交流促進事業 社会参加促進事業 共通 ホームページ・ SNSの活用	【目的】 市民の誰もがホームページやSNSによって手軽に情報を入手できる環境設定を行い、各Youth+への興味、関心が高まる情報を発信する。 【内容】 ホームページ及びSNSの更新・管理、ウェブアクセシビリティに準拠した設定を保つ。 【対象】 札幌市民 【人数】 定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(10)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
3	継続	自立支援事業 交流促進事業 社会参加促進事業 共通 オンライン 推進事業	【目的】 施設外からの参加を可能とする事業を展開し、参加者の拡大を目指す。 【内容】 各Youth+施設間及び他都市施設との連携をする。 【対象】 主に15～34歳の若者 【人数】 全館延べ50人以上	【R6年度実績予測】			
				通年	3回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
4	レベル アップ 重点取組	交流促進事業 若者の交流相談 ロビーワークの実施	【目的】 若者の成長とワーカーのスキルアップを図る。 【内容】 若者一人ひとりにワーカーが意図を持って介入し、関係構築を図る。また、若者の情報共有を図り、必要に応じてケース検討を実施する。 【対象】 主に15～34歳の若者 【人数】 全館40,000人以上	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
5	継続	交流促進事業 若者団体 ネットワーク構築 Youth+NET構築	【目的】 若者が中心となる団体同士や団体とまち(主に市民や他団体)を情報でつなぎ、ネットワークを構築する。 【内容】 Youth+NET構築 【対象】 主に15歳～34歳までの若者 【人数】 定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年		(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
6	レベルアップ 重点取組	社会参加促進事業 育成プログラム ユースワーカー 養成講座	【目的】大学生世代の若者を対象に、ユースワークに必要な専門的知識を身につけ、若者を取り巻く社会課題の解決に寄与する人材を育成する。 【内容】ユースワークを知る機会を提供する。 【対象】大学生世代の若者 【人数】20人程度	【R6年度実績予測】			
				12月	1回	(0)	(15)
				【R7年度】			
通年	2回	(0)	(120)				
7	レベルアップ	社会参加促進事業 学習支援 ボランティアの 養成	【目的】「まなびのサポート事業」による中学生との関わりをコーディネートすることで学習支援サポーターの成長を促進する。 【内容】まなびのサポート事業 【対象】大学生世代の若者 【人数】各館10人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	240回	(0)	(0)
				【R7年度】			
通年	240回	(0)	(0)				
8	継続	社会参加促進事業 LGBTQ推進事業	【目的】性別等にとらわれない居場所を提供する。LGBTQユースのニーズの把握や若者にとって有効な情報の提供を行う。 【内容】①居場所事業（月1回程度） ②各Youth+におけるLGBTQの啓発等。 【対象】①居場所：15歳～24歳までの若者 ②啓発等：Youth＋施設利用者 【人数】①20人程度 ②定員なし 【協働団体】（一社）にじいろほっかいどう	【R6年度実績予測】			
				通年	①年13回 ②随時	(0)	(35)
				【R7年度】			
通年	①年12回 ②随時	(0)	(120)				
9	継続	社会参加促進事業 地域活動 ネットワーク構築 地域若者サポーターの獲得と協働	【目的】若者団体・市民・他団体をつなぐネットワークを構築する。人材の獲得と協働事業実施につなげる。 【内容】地域若者サポーターの獲得と協働 【対象】主に15～34歳の若者及び市民 【人数】随時募集	【R6年度実績予測】			
				通年	105名	(0)	(0)
				【R7年度】			
通年	随時	(0)	(0)				
10	継続	社会参加促進事業 利用者モニタリング事業	【目的】若者の施設運営への参画意識を育む。 【内容】若者の意見や要望を取り入れるための、アンケートや聞き取りを実施する。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	4回	(0)	(0)
				【R7年度】			
通年	随時	(0)	(250)				
11	継続	社会参加促進事業 さっぽろ 青少年女性 活動協会連携事業	【目的】財団内での連携を進め、各課の強みや持っている資源を有効に活用し、若者に向けてより効果的な取り組みにつなげる。 【内容】部内連携事業、他課連携事業 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】事業により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	30回	(0)	(0)
				【R7年度】			
通年	随時	(0)	(0)				
12	継続	社会的自立に関する調査研究事業① テーマ別調査	【目的】利用者登録時、利用者満足度等のアンケートの実施や関係機関へのヒアリングなどを踏まえた調査・分析を行い、若者や社会ニーズを捉えた施設運営を図る。なお、若者支援施設運営協議会において、結果を報告、新たな提案を行い委員の意見を運営に反映する。 【内容】利用者登録・満足度アンケートの実施と調査分析と若者の声の聞き取り等。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年 1月	登録時 アンケート随時 満足度 アンケート年1回	(0)	(0)
				【R7年度】			
通年	随時	(0)	(50)				

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
13	継続	社会的自立に関する調査研究事業② 若者を取り巻く環境の調査	【目的】若者支援に関連する事業調査や実践研究を目的に、全国の若者支援施設等への職員派遣を行い、職員の専門性を会得する機会とする。 【内容】法政大学平塚教授科研の参加、全国ユースワーク実践団体意見交換など また、収集した情報等は、若者を取り巻く社会ニーズに応じた取組みへつなげる。	【R6年度実績予測】			
				通年	40回	(0)	(0)
14	レベルアップ	さっぽろ若者支援ネットワーク構築事業 若者支援施設運営協議会の設置と開催	【目的】事業や管理業務等の状況報告及び運営水準の向上に係る協議を行う。また、若者支援施設運営の方向性等の検討を行う。 【内容】外部委員等構成で会議体を運営する。 【対象】運営協議会委員 【人数】20名程度	【R6年度実績予測】			
				7・11・3月	3回	(0)	(98)
15	継続	その他事業 大学実習・インターンシップ 受け入れ	【目的】Youth+やユースワーカーの認知度の向上を図り、若者支援に携わる人材育成につなげる。 【内容】大学の実習、インターンシップの受け入れ。 【対象】主に大学生 【人数】定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	4回	(0)	(0)
16	継続	その他事業 視察受け入れ 講師派遣	【目的】依頼に基づき、視察・見学の受け入れや講師・委員派遣等を行う。 【内容】視察受入、講師派遣など 【対象】各都道府県市町村、高校など 【人数】随時	【R6年度実績予測】			
				通年	120回	(0)	(0)
17	継続	その他事業 フードパントリー事業	【目的】食糧等の物資を届けることをきっかけに、その子ども若者が必要としている支援や事業等へとつなげる。 【内容】アウトリーチ事業、いとこんち、ヤングケアラー事業、Youth+ロビー等におけるの宅配をとおした見守り機能。 【対象】子ども・若者、その保護者 【人数】随時	【R6年度実績予測】			
				通年	90回	(0)	(0)
18	継続	その他事業 環境への取り組み	【目的】環境配慮の周知と啓発等を行い、利用者が共に考え行動するための機会を提供する。 【内容】環境行動マニュアルに基づいた施設運営に取組む。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
19	継続	その他事業 システム環境の整備	【目的】施設利用における市民への利便性の向上を引き続き図り、事務作業の効率化も図る。 【内容】施設管理を中心とした業務フローの見直しや業務のシステム化を実践する。 【対象】主に15～34歳の若者、一般市民 【人数】定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
20	継続	自主事業 飲料等の販売	【目的】利便性の向上及び収益の確保のために実施する。なお、収益は若者のニーズを反映させた備品更新等に充てる。 【内容】自動販売機の設置。 【対象】主に15～34歳の若者、一般市民 【人数】定員なし	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(800)	(450)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(1,208)	(144)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
21	継続	自主事業 地域若者サポート ステーション	【目的】若者の就労支援体制の充実を図る。 (厚生労働省事業) 【内容】 ・若者サポートステーション事業の受託及び実施 ・職業的自立に向けたキャリアコンサルティング ・就職支援プログラム等 【対象】15歳～39歳及び40代の就職氷河期世代 【人数】新規登録者数:210人 就職決定者等数:145人	【R6年度実績予測】			
				通年	・新規登録者 数:200人 ・就職決定者 等数:90人	(42,583)	(0)
				【R7年度】			
				通年	・新規登録者 数:210人 ・就職決定者 等数:145人	(42,583)	(2,883)

(3) 札幌市若者支援総合センター (自立支援)

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談	【目的】困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくる。 【内容】 ・複数の有資格者を配置し、個別相談を行う。 ・オンラインも活用し相談支援を展開する。 ・適切なタイミングで支援に最適な機関へつなぐ。 ・相談者向け満足度・ニーズ調査を行う。 (年1回) 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族及び関係者等 【人数】新規登録:400人・進路等決定:345人 【自立支援事業の重点目標】 本年度は特に、学校等との連携のもとに10代の相談支援に注力する。	【R6年度実績予測】			
				通年	・新規登録 :306人 ・進路等決定 :250人	(0)	(30)
				【R7年度】			
				通年	・新規登録: 400人 ・進路等決定 :345人	(0)	(30)
2	継続	自立支援事業 自立支援プログラム	【目的】一人ひとりの社会的自立を支援するため、適切なアセスメントを行う。 【内容】 ・自己理解や他者理解を深め、スキル向上を目指すグループプログラムを行う。 ・オンラインも活用したプログラムを行う。 ①初期支援プログラム(居場所や集団に慣れていく段階のサポートを行う) ②就労支援プログラム(就労に向けた準備・活動をしていく段階のサポートを行う) ③10代向けプログラム(所属意識を高めながら、進路や就労に向けたサポートを行う) ④キャリアアップ応援プログラム(学校や職場への定着やキャリアアップに向けたサポートを行う) ⑤家族の会 【対象】自立支援事業登録者 【人数】各プログラム8人/回	【R6年度実績予測】			
				通年	随時 ①週2回 ②週2回 ③週2回 ④月1回 ⑤月1回	(0)	(150)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(150)
3	継続	自立支援事業 社会体験機会創出 事業	【目的】地域の個人や団体、企業等と協働し、若者を支える地域の基盤づくりを推進する。 【内容】 ・企業開拓員を配置し、相談員やユースワーカーと連携しながら企業等のもとで行うジョブトレーニングや現場見学、地域でのボランティア体験等をコーディネートする。 ・地域の個人・団体・企業等とのネットワークを構築する。 ・ボランティアサポーターの育成を行う。 【対象】自立支援事業登録者 【人数】 ・参加者延べ数:900人 ・新規登録企業数:60社 ・サポーター登録数:50人	【R6年度実績予測】			
				通年	・参加者数 :810人 ・新規企業数 :54社 ・サポーター 登録数 :42人	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(2,906)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
4	継続	自立支援事業 中学校卒業生等進路支援事業	【目的】 学校卒業時または中途退学時に進路未定もしくは教職員が心配な若者に対して、切れ目なく必要な支援につながる体制を構築する。 【内容】 ・Youth+センターを相談窓口とし、相談者の状況に応じて訪問相談に応じるほかオンラインやLINE等も活用する。 ・学校と連携を図り、必要に応じて自立支援プログラムや活動センターの事業等を活用する。 ・進路支援担当者を配置し、学校等への訪問活動を行う。 【対象】 中学校・高校の卒業時または高校中途退学時に進路未定もしくは学校教職員が進学・就労後も心配な若者とその家族 【人数】 情報提供数：180件・支援開始数：70人	【R6年度実績予測】			
				通年	随時 ・情報提供数：180件 ・支援開始数：70人	(0)	(50)
5	継続	自立支援事業 広報セミナー	【目的】 子ども・若者の声を届ける機会をつくり、自立支援事業の周知・啓蒙を進める。 【内容】 ①一般市民向け出張説明・相談会（他機関合同開催やYouth+センター会場開催を含む） ②支援者向けセミナー（教職員向け、社会課題に応じたテーマ） 【対象】 自立支援事業対象者や支援者等 【回数・人数】 ①年13回・延べ100人 ②年2回・延べ100人	【R6年度実績予測】			
				通年	①年14回 延べ97人 ③年2回 延べ99人	(0)	(120)
				【R7年度】			
				通年	①年13回 ・延べ100人 ②年2回 ・延べ100人	(0)	(219)

(4) 札幌市若者支援総合センター (Youth+センター・1階)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (センター)	【目的】困難を有する若者が適切な相談支援につながる機会を提供する。 【内容】ロビー相談及び相談機関への同行支援。 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族及び関係者等 【人数】新規登録：4人	【R6年度実績予測】			
				通年	4人	(0)	(0)
2	レベルアップ	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (センター)	【目的】若者の興味関心を引き出すとともに交流を促進し、若者の居心地の良い居場所の創出を図る。 【内容】若者の「やりたい」を実現する。 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	116回	(20)	(50)
3	レベルアップ	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (センター)	【目的】施設外の居場所において、若者が自主的に活動ができる機会を提供する。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業) 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	23回	(10)	(35)
4	継続	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (センター)	【目的】若者の声を反映させ、若者の自己実現の場を創出する。 【内容】若者が主体となり運営等に携わる事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	6回	(18)	(33)
5	継続	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (センター)	【目的】グループ活動をととして、仲間意識を醸成しメンバー同士の相互作業をととして成長する機会を提供する。また、主体的な活動運営の移行を目指す。 【内容】サークル活動 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】サークル内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	15回	(0)	(30)
6	レベルアップ	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (センター)	【目的】地域との協働事業等をととして、若者が地域活動へ参画する機会を提供し、地域や社会への興味関心を高める。 【内容】地域連携、協働事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	12回	(0)	(15)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (センター)	【目的】若者が、社会に関心を持つ機会を提供し、多様な価値感に触れる機会を提供する。 【内容】若者の身近な社会課題を取り上げた事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	18回	(0)	(10)
8	継続	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (センター)	【目的】若者の声を地域に届けるとともに、若者の主体的な取組みをととして社会意識を啓発する。 【内容】若者のニーズに応じた地域や関係機関との連携事業 【対象】15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	8回	(0)	(10)
9	継続	さっぽろ若者支援 ネットワーク構築 事業子ども・若者 支援地域協議会	【目的】子ども若者支援の切れ目のないネットワークを構築するため。 【内容】地域協議会の調整機関として、構成機関及び地域の民間支援団体のコーディネートを行う。 【対象】子ども・若者支援地域協議会構成機関 【人数】定員なし ※こども事業課・こども育成課・市民参画課連携事業	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(120)
				【R7年度】			
				通年	4人	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	50回	(20)	(60)
				【R7年度】			
				通年	20回	(10)	(40)
				【R7年度】			
				通年	4回	(20)	(100)
				【R7年度】			
				通年	12回	(0)	(30)
				【R7年度】			
				通年	10回	(0)	(30)
				【R7年度】			
				通年	12回	(0)	(20)
				【R7年度】			
				通年	3回	(0)	(20)
				【R7年度】			
				通年	随時	(0)	(0)

(5) 札幌市アカシア若者活動センター (Youth+アカシア)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (アカシア)	【目的】困難を有する若者が、適切な相談につながる機会を創出する。 【内容】ユースワーカーによる同行支援・アウトリーチ活動 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族 【人数】新規登録：4人	【R6年度実績予測】			
				通年	4人	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	4人	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (アカシア)	【目的】施設資源を活用し、若者の興味関心を引き出した交流促進の機会を創出する。 【内容】若者の興味関心を引き出す様々な活動 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	70回	(0)	(10)
				【R7年度】			
				通年	66回	(5)	(50)
3	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (アカシア)	【目的】施設外の地域資源を活用し、若者が能動的に参加・活動のできる居場所を創出する。 【内容】ミニYouth+（施設外居場所作り事業）出張ユースワーク 【対象】主に15～22歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	20回	(0)	(70)
				【R7年度】			
				通年	10回	(0)	(50)
4	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (アカシア)	【目的】若者の声を反映させた事業展開により、自己実現・体験機会の創出を図る。 【内容】ミニライブ、ワークショップ 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	10回	(3)	(15)
				【R7年度】			
				通年	11回	(0)	(40)
5	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (アカシア)	【目的】若者が意欲的に参加し、仲間意識や所属意識を醸成できる居場所を創出する。 【内容】小学生を対象とした体験活動サークル 【対象】主に15～22歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	80回	(5)	(0)
				【R7年度】			
				通年	30回	(0)	(10)
6	レベルアップ	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (アカシア)	【目的】若者が活躍できる地域フィールドの形成を目的に連携地域との関係性を構築する。協働団体とともに、若者が活躍できる参加・参画の機会を創出する。 【内容】町内会役員会、地域連携・協働事業 【対象】主に15歳～34歳の若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	9回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	11回	(0)	(18)
7	レベルアップ	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (アカシア)	【目的】若者のニーズを引き出し事業化することで、社会に関心を持つ機会を提供する。 【内容】利用者モニタリング、若者チャレンジ応援隊（ホップ・ステップ） 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	13回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	16回	(0)	(20)
8	レベルアップ	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (アカシア)	【目的】若者の声を地域に届けるために、主体的な取り組みをとって社会意識を啓発する。 【内容】若者チャレンジ応援隊（ジャンプ） 【対象】主に15～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	5回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	5回	(0)	(20)

(6) 札幌市ポプラ若者活動センター (Youth+ポプラ)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (ポプラ)	【目的】困難を有する若者が、適切な相談につながる機会を創出する。 【内容】ユースワーカーによる同行支援・アウトリーチ活動 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族 【人数】新規登録：4人	【R6年度実績予測】			
				通年	1人	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	4人	(0)	(0)
2	レベルアップ	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (ポプラ)	【目的】ロビー利用者だけでなく新規参加者の獲得を目指し、若者のニーズを取り入れるとともに、ユースワーカーの個性を活かした様々なミニイベントを施設内外で実施し、若者が交流できる機会を創出する。 【内容】若者のニーズを取り入れた各種ミニイベントを実施する。 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回8人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	年60回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年65回	(0)	(50)
3	継続	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (ポプラ)	【目的】若者の居場所の選択肢を増やすことを目的として、地域資源を活かした居場所づくりを実施する。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業) 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回4人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	年5回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年5回	(0)	(10)
4	継続	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (ポプラ)	【目的】若者の声を基に、季節行事などの文化的体験に触れる機会を提供する。特に、家庭での体験機会が少ない若者に向けて実施する。 【内容】季節行事体験事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】各回8人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	年7回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年4回	(5)	(10)
5	継続	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (ポプラ)	【目的】共通の興味・関心を持つ若者にグループ活動の機会を提供する。また、ユースワーカーの個性・特技を活かし若者グループの育成を図る。実施に当たっては、グループワークの手法を取り入れ、一人ひとりの成長を促す。 【内容】サークル活動 【対象】主に15歳～29歳までの若者 【人数】各回4人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	年16回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年12回	(0)	(10)
6	継続	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (ポプラ)	【目的】若者が地域の事業に参加し、多世代交流をととして、社会の一員であるという気付きを得るきっかけづくりを行う。 【内容】地域連携事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	年14回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年12回	(0)	(20)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (ポプラ)	【目的】若者が社会に関心を持つ機会を提供する。掲示の制作においては、若者が意見を表明できるような工夫を取り入れる。 【内容】社会課題等の掲示物の制作 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	年12回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年12回	(0)	(80)
8	レベルアップ	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (ポプラ)	【目的】若者の声を地域に届けるために、主体的な取り組みをととして社会意識を啓発する。 【内容】トークイベント、パネル展の実施 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	随時	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	年2回	(0)	(10)

(7) 札幌市豊平若者活動センター (Youth+豊平)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (豊平)	【目的】困難を有する若者とのコミュニケーションを図り、必要に応じた適切な相談機関・団体へとつなげる。 【内容】相談支援につなげるロビーワーク・同行支援 【対象】主に15歳～39歳の若者とその関係者等 【人数】新規登録：4人	【R6年度実績予測】			
				通年	1人	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (豊平)	【目的】若者が安心できる居場所を提供し、そこに集う若者が積極的に交流できる事業を展開する。 【内容】若者の「やりたい」を実現する。 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	年96回	(12)	(50)
3	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (豊平)	【目的】施設外の居場所において、関係機関や子ども若者支援団体との連携を図った居場所づくりを行う。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業) 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	年24回	(0)	(50)
4	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (豊平)	【目的】若者の声を反映させ、若者の自己実現や成功体験を積み重ねる場を創出する。 【内容】若者が主体となり運営等に携わる事業(地域還元イベント) 【対象】主に15歳～34歳までの若者、市民 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				11月、12月	年2回	(15)	(30)
5	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (豊平)	【目的】若者が興味関心を持つ共通テーマを選定し、その場集った若者同士の仲間意識が芽生える機会の提供を行う。またその活動が主体的な自主活動へ発展できるサポートを行う。 【内容】サークル活動 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】サークル内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	年72回	(15)	(75)
6	継続	社会参加促進事業 地域の社会活動 への参加促進 地域事業への参加 (豊平)	【目的】地域との協働・連携を通して、若者が地域活動への参画や自身の活動を伝える機会を提供し、地域や社会へ参画する興味関心を高める。 【内容】FMアップル、地域町内会連携 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	年24回	(0)	(83)
7	レベル アップ	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (豊平)	【目的】若者が社会に関心を持つテーマを設定し、自分の意見表明だけでなく他者の意見にも触れ、多様な価値感を知り、触れる機会を提供する。 【内容】若者の身近な社会課題を取り上げた事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	年12回	(0)	(150)
8	レベル アップ	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (豊平)	【目的】若者の声や活動を施設外へ届けるとともに、若者の主体的な取り組みをとおして社会参加や自主活動を発展させる活動の支援を行う。 【内容】若者のニーズに応じた地域や関係機関との連携事業 【対象】15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容により設定	【R6年度実績予測】			
				通年	年6回	(0)	(30)
				【R7年度】			
				通年	年70回	(5)	(40)
				【R7年度】			
				通年	年10回	(0)	(80)
				【R7年度】			
				通年	年10回	(10)	(50)
				【R7年度】			
				11月～3月	年10回	(10)	(50)
				【R7年度】			
				時期未定	年2回	(6)	(70)
				【R7年度】			
				通年	年20回	(0)	(76)
				【R7年度】			
				通年	年6回	(0)	(30)
				【R7年度】			
				11月～3月	年3回	(0)	(30)

(8) 札幌市宮の沢若者活動センター (Youth+宮の沢)

(単位) : 千円

No	種類	事業名	目的・内容・対象・人数等	時期	回数	収益	費用
1	継続	自立支援事業 自立支援相談 (宮の沢)	【目的】困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくる。 【内容】個別支援、教育センターとの連携事業 【対象】主に15歳～39歳の若者とその家族等 【人数】新規登録：4人	【R6年度実績予測】			
				通年	4人	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	4人	(0)	(0)
2	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 (宮の沢)	【目的】若者のニーズを聞き取り、実現することで安心できる居場所をつくる 【内容】若者のやりたいを実現し交流する事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 (事業内容によっては22歳まで) 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	48回	(2)	(36)
				【R7年度】			
				通年	40回	(2)	(70)
3	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム 居場所型 居場所拡充事業 (宮の沢)	【目的】地域と協働して施設外に活動場所をつくり、地域住民と若者との交流を行う。また、ユースワーカーと地域住民が連携し若者の成長を見守る環境を醸成する。 【内容】ミニYouth+ (施設外居場所作り事業) 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				通年	13回	(0)	(63)
				【R7年度】			
				通年	5回	(0)	(42)
4	レベル アップ	交流促進事業 交流促進 プログラム イベント型 (宮の沢)	【目的】若者の興味関心や活動・経験を活かし新規来館者の獲得をする。 【内容】大学生世代の学習支援等の中～大学生交流事業 【対象】主に中高生世代および、大学生世代 【人数】40人程度	【R6年度実績予測】			
				2月	1回	(0)	(6)
				【R7年度】			
				通年	2回	(4)	(40)
5	継続	交流促進事業 交流促進 プログラム グループ育成型 (宮の沢)	【目的】若者が役割を意識することでグループの帰属意識を高める。また、グループのメンバー同士が互助し目標に向けて取組む機会をつくる。 【内容】サークル活動 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				2月～3月	1回	(0)	(5)
				【R7年度】			
				通年	1回	(0)	(0)
6	継続	社会参加促進事業 地域の社会活動 への参加促進 地域事業への参加 (宮の沢)	【目的】地域若者サポーターと連携し地域事業やボランティア活動等に携わり、地域社会との接点を持つことで社会への興味関心を高める。 【内容】地域連携事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】事業内容による	【R6年度実績予測】			
				6月～11月	5回	(0)	(7)
				【R7年度】			
				通年	4回	(150)	(175)
7	継続	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (宮の沢)	【目的】社会に関心を持つ機会を提供する。 【内容】若者の身近な社会課題を取り上げた事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】40人程度	【R6年度実績予測】			
				通年	24回	(0)	(0)
				【R7年度】			
				通年	4回	(0)	(0)
8	レベル アップ	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識 ボトムアップ型 (宮の沢)	【目的】若者の声を地域に届けるために、主体的な取組みをとって社会意識を啓発する。 【内容】若者が地域資源を活用し、情報を地域・市民に届ける事業 【対象】主に15歳～34歳までの若者 【人数】20人程度	【R6年度実績予測】			
				8月	1回	(130)	(94)
				【R7年度】			
				通年	3回	(0)	(74)

令和7年度 重点取組事業実施計画書

【若者支援事業課】

□事業名
交流促進事業若者の交流相談ロビーワークの実施
□目的・内容・対象・人数等
【目的】若者の成長とワーカーのスキルアップを図る。 【内容】若者一人ひとりにワーカーが意図を持って介入し、関係構築を図る。また、若者の情報共有を図り、必要に応じてケース検討を実施する。 【対象】主に15～34歳の若者 【人数】全館40,000人以上
□事業効果
・若者の成長とワーカーのスキルアップ ・新規の若者の利用拡大 ・大学との連携によるアクティブ層の利用の拡大 ・ロビーの活性化 ・若者の多様な課題やニーズを捉え、新たな事業展開につなげる

□事業名
社会参加促進事業育成プログラムユースワーカー養成講座
□目的・内容・対象・人数等
【目的】大学生世代の若者を対象に、ユースワークに必要な専門的知識を身につけ、若者を取り巻く社会課題の解決に寄与する人材を育成する。 【内容】ユースワークを知る機会を提供する。 【対象】大学生世代の若者 【人数】20人程度
□事業効果
・大学生世代の成長とワーカーのスキルアップ ・大学との連携強化 ・ユースセンター、ユースワーカーの認知度向上 ・大学生ユースワーカーの活用

令和7年度 人材育成計画書

【若者支援事業課】

1.人材育成方針（人材育成における1年間の見通し）

ユースワーカーとしての自信とプライドを育てる

令和6年度当初、若者を取り巻く社会課題の察知能力や問題解決力を持つ職員育成を目指し、先進的な取り組みを行っている団体や支援者から学ぶ場を充実させた。しかし、実際は新任・異動職員が多くを占め、自身の課題意識や学習レベル、段階にズレ（受け身学習）が生じ始めたことから、急速、教育方法を柔軟に見直し、主体的な学びを通し自ら考え、取り組み、答えを導き出すことのできる人材を育てる「Youth+ゼミナール（Yゼミ）」を研修の軸に位置付けた。令和7年度においても、職位に関係なく、ユースワークに必要な学びを主体的に行動する環境を整え、多角的な視点が求められる若者支援の現場において、自ら実践に移すことができる職員を育成する。

2.各部門において必要とする業務特有スキル（専門的な能力）

- ・ユースワークの専門性ならびにユースワーカーの資質の向上（ユースワークを語ることのできる力）
- ・全国的な若者支援のトレンドと札幌市の課題、来所者の状況等多角的な視点から事業を組立て、実行する力
- ・他課や他団体（地域、NPO等）とのネットワークを構築し、活用する力
- ・スタッフが保有する専門知識を収益につなげる力
- ・若者を対象とした対人援助スキル

3.具体的な教育方法

OJT	・ユースワーク事例の収集と発表ならびに大学生ユースワーカーの育成をとおして、全職員がユースワークの有用性やユースワーカーの専門性を実践の中で語れることを目標とする。なお、スーパーバイズには主任職・係長職が就き、職位に相応なマネジメント能力の向上を図る。
部門別研修	・問題解決型研修：問題に対して、原因を特定・対策・確認する一連の学び。 （個人情報保護・発達障がい特性がある若者への対応・コンプライアンス・クレーム初動対応等、その時々に必要な研修内容を柔軟かつタイムリーに実施する） ・課題達成型研修：個人や施設における目標を設定し、プロセス/システムを構築し、目標を達成する一連の学び。 （Youth+ゼミナール）
その他	・オンライン、出張を活用した先進的な若者支援団体との積極的な交流と学びのフィードバック。 ・ユースワーク関連研修を活用した学びの部内連携の推進。

4.スケジュール

（単位：千円）

月	研修名	研修内容	対象	経費
4月	【新規】 ①問題解決型研修 【継続】 ②初任者研修 【継続】 ③事業方針・事務分掌の理解	①個人情報保護、コンプライアンス、施設管理（防火・防災※年2回・施設管理・環境）等に係る研修 ②若者支援の歴史や条例を背景とした若者支援施設の基礎知識、対人援助の基本を学ぶための研修 ③方針に基づき、チームでの話し合いをとおして理解を深める	①③ ・全職員 ・他課職員含む ② ・新規採用者 ・新規着任者	0
5月	【継続】 自立支援業務研修	自立支援相談窓口の運営に必要な「対人援助スキル」について基礎から応用、実践までをとおして学ぶ。また、職員の経験に応じて「記録の取り方」「ケース検討」等の学びも取り入れる。	全職員・他課職員含む	350
6月	【新規】 課題達成型研修 「Youth+ゼミナール」～1月まで	職員個々の課題や社会課題を基に、ゼミナール形式にて学びを進める。長期的に研究、実践を重ね、成果発表を行う。	全職員	0
9月	【継続】 デジタルリソース活用研修	業務効率ならびに情報発信力の向上に向けた、具体的活用法を学ぶ。Instagramを中心としたSNSの活用およびオンラインによる事業展開のアイデアやノウハウを獲得する。	全職員	30
10月	【継続】 ①マネジメント研修 【継続】 ②人材交流研修	①外部の専門家を招き、事業評価や人材育成に関する内容を実施する。 ②他館勤務をとおして、ロビーワークや事業の視野を広げ、新たな事業展開につなげる。	①主任・係長 ②一般職	50
1月	【新規】 Youth+ゼミナール報告会	研究・実践を基に、ユースワークの有用性やユースワーカーの専門性について議論する。成果を次年度事業計画ならびに人材育成計画へ反映させる。	全職員	0
時期未定	【新規】 ①問題解決型研修 【継続】 ②先進的な学びの取得	①若者や施設、社会課題等その時々に応じた必要な学びを協会職員のみならず、外部の専門家を活用し、学びを提供する。（クレーム初動対応、ゲートキーパー等） ②オンラインや出張をとおした研修・発表、外部研修への参加。	①② ・全職員 ・他課職員含む	620

経費合計	1,050
------	-------